

個別支援学級 生活単元学習の実践

1 単元名 「みんなで協力してクリスマスパーティーを開こう」

2 単元目標

単
元
目
標

○クリスマスパーティーのイメージを膨らませて活動を考えたり、みんなで楽しさ感じるための方法を考えたりすることができる。

○友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。

○クリスマスパーティーを開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して創り上げていく楽しさを味わうことができる。

○友だちと協力して、話し合いを進めたり、発表したりすることができる。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業作り

ブロックテーマ「感じる心、気持ちを伝える自分」

(1) 児童の実態

<聴く・話すについての実態と指導>

4月から様々な場面で小さなことでもみんなで決めてきた。自分の意見を出したり、意思表示をしたりすることで話し合いに参加するという経験を重ねてきた。最初の頃は、何について話し合っているのか理解できず、意思表示ができなかった児童も「みんなで決める」ことを繰り返していくうちに、少しずつ自分の意思を表すことができるようになってきた。また、個学の「話す・聴くルール」として、話し手を見る・最後まで聴く・みんなの方を向いて話す・みんなに伝わるように話す・考えにできるだけ理由をつけることを大切にしてきた。それぞれの考えを聞きながら、話し合いを進めるうちに、一生懸命に話す子の話を最後まで聞こうとする姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになってきた。また、上学年の子が話す姿を見て、話の内容が分からなくても自分の意見を伝えたいという思いを持って話す下学年の姿も見られるようになった。

ただ、自分の思いに固執し、人の意見を受け止めきれないため、決まった意見に納得できずに自己主張を言い続けたり、言いたい時に指してもらえないため苛立ってしまったりする子もいる。そのため話し合いの約束カードを個別に作り、指導をしていく中で本人とどのように話し合いに参加すると良いかを相談しながら進めている。

<個学の中での関わり合い・ひびきあい>

3クラスが集まり、総勢16名。それぞれのクラスの子もたちの様子はそれぞれ違うが、一緒に学ぶ中で交流が生まれ、お互いを「仲間・友達」として意識しているため、休み時間に誘い合って遊ぶ姿も見られる。また今年度も、朝の会・生活単元・体育科・音楽科・図工・外国語などで一緒に活動や学習をすることを多くしてきた。それは、それぞれの学級の実態が違うため、支援の仕方に違いはあるが、16人が共に活動する中で、豊かなかかわりができ、思いがひびき合うのではないかと考えたからである。また、その中で互いの良さを認め合うことができるのではないかと考えている。

今までの生活単元学習では、「野菜を育てたい」という思いから野菜を育て、夏野菜を使った料理にグループごとに分かれて挑戦したり、「ハロウィンパーティー」をみんなで話し合って計画したりしてきた。活動や話し合いの中で自分の意見を伝えると、友だちが受け止めてくれることやみんなで協力すると楽しくなるということを経験してきている。下学年の子は、自分なりの表現方法で思いを伝えようとし、聴いている児童も何を言おうとしているのか受け止めながら、聴いている。上学年の子は、今までの生活経験をもとに下学年の子に分かるように伝えようとしている姿が見られるようになってきている。

4 単元と指導

①単元について

本単元では、「みんなでクリスマスパーティーを開きたい」という思いをみんなが持ち、その思いを大切にしながら話し合っている。毎年行っているクリスマスパーティーなので、今までの経験から何をしたら楽しいかが分かっている子も多い。しかし、分かっているからこそいつも準備や時間に追われていることも知っている。そのため、6年生の児童から「クリスマスパーティーをやるのは、難しい」という意見が出た。友だちの意見に流されやすい子どもたちが多いので、みんながその意見に同調し始め、クリスマスパーティーはやらなくなるのかと思った。しかし、2年生の子が「先に準備をしておけば、大丈夫だと思う。」という意見を出した。すると、周りから「おお。」「そうだね。」というつぶやきが聞こえた。「みんなで協力して、がんばればできると思う。」というような意見も出始めた。その後、「意見が変わって・・・」と発言が始まった。それぞれの意見を聞いた結果、「みんなで協力して楽しいクリスマスパーティーをしよう。」とみんなの思いを確認した。

②指導について

<単元における指導観・願い>

生活単元学習では、生活に根ざした学習や季節を感じる学習を取り入れてきている。「クリスマスパーティー」は、毎年恒例のイベントとなっているが、子どもたちはわりと受け身でいることが多い。やりたいけれども、どうしたら良いか、何をしたら良いかまでは考えを深めることは難しい。そこで、今回は今までの経験を生かして、「自分たちで作るクリスマスパーティー」にしたいと考えた。一人ひとりの子どもたちが「クリスマスパーティーをやりたい」という気持ちを実現させるにはどうしたらいいかを考え、協力することの大切さに気づいてほしいと願っている。そして、自分たちの思いが実現できた満足感を味わうことにより、次の活動や様々な学習への意欲へつなげていきたい。また、自分の思いだけでなく、みんなの思いを大切に受け止めながらみんなが楽しめる会を考えていけるようにしたい。

この単元を通して、話し合いや活動の中で子どもたちが「解決したい課題」に向かって考えたり、思いを伝えたり、協力したりして実現できる喜びを感じさせていきたい。

<ひびき合いについて>

話し合いの中では、話し合い全体を見て自分なりに考えたり、友だちの考えを理解してより良い方法を考えたりできるようにしたい。話し合いの内容を理解したり、イメージをもったり膨らませたりすることが得意ではない子どもたちであるので、話し合い活動の中で、具体的な物を見せるなど視覚的な支援や活動を取り入れることで、イメージを持ちやすくしながら学習を進めるようにしたい。

活動の中では、友だちの動きや言葉を見て、良いところを見つけ、真似ることも大切にしたい。初めてのことに不安がある子もいるので、友だちのやり方やがんばる姿を見て、自分からやってみようとする気持ちをもつこともひびきあう姿としたい。さらに、友だち同士で声をかけたり、助け合ったりする姿につながってほしいと思う。

単元のねらい

- クリスマスパーティーのイメージを膨らませて活動を考えたり、みんなで楽しさ感じるための方法を考えたりすることができる。
- 友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。
- クリスマスパーティーを開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して創り上げていく楽しさを味わう。
- 友だちと協力して、話し合いを進めたり、発表したりすることができる。

後期はどんなことをしようかな？

- ・冬野菜を育てたい！
- ・クリスマスパーティーをしたい。
- ・お別れ遠足に行きたい。
- ・お誕生会・お別れ会をしたい。

クリスマスパーティーをどうしていくか話し合おう。

- ・みんなで協力して準備すれば、大丈夫だよ。
- ・早めに準備をしていけば、できると思う。
- ・みんなのできることをやっていけば、良いと思う。

クリスマスパーティーをやりたいけど、いろいろな準備をしなくちゃいけないから難しいよ。

みんなで協力してクリスマスパーティーを開こう！

クリスマスパーティーでどんなことをしていくか話し合おう ③

クリスマスケーキを作って食べたい。

- ・簡単なケーキなら作れるかな。
- ・作り方はどうしよう？

衣装を作って、歌ったり踊ったりしたい。

- ・今までに作った衣装をリメイクしよう。
- ・どんな曲がいいかな？

クリスマスの飾りを作りたい。

- ・クリスマスツリーや窓や壁に飾って雰囲気を盛り上げよう。

プレゼント交換をしたい。

- ・みんなが喜ぶプレゼントは何かかな。
- ・作れるかな？

みんなで遊びたい。

- ・みんなが楽しめる遊びを考えよう。
- ・仲良くできるかな？

活動グループごとにみんなに希望を聞いてみよう。③

クリスマスケーキ

- ・どんなケーキを作りたいですか？
- ・チョコ・クリーム・フルーツなどをのせたい。
- ・ホットケーキで作りたい。

衣装・踊り・歌

- ・踊りや歌の曲は何か良いですか？
- ・〇〇の曲で踊りたい。
- ・クリスマスの曲を歌いたい。
- ・サンタの柄をつけたい。

飾り

- ・どんな飾りが良いですか？
- ・クリスマスツリーには、靴下を飾りたい。

遊び・プレゼント

- ・どんな遊びが良いですか？
- ・プレゼントは何か良いですか？
- ・折り紙・アイロンビーズ

みんなに伝えるときには、できるだけ理由も考えさせ、一緒に言えるようにする。

話し合いの際には、個学の「聞く・話す」ルールをもとに行えるように声かけをする。

みんなの意見を元に、クリスマスパーティーの計画を立てよう。⑥ (本時)

クリスマスケーキ

- ・ホットケーキで作ろう。
- ・食パンでもできるかも。
- ・クリームで飾ろうかな。

衣装・踊り・歌

- ・みんなが知っている曲が良いな。
- ・踊ったことがある曲にしよう。
- ・衣装の飾りは、サンタはどうかな。

飾り

- ・クリスマスツリーに靴下や星の飾りをつけよう。
- ・窓には、サンタを飾ろう。

遊び・プレゼント

- ・みんなが楽しめる遊びにしよう。
- ・ルールも分かりやすくしよう。
- ・みんなが喜ぶプレゼントにしよう。

友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。<評>

グループでの作業が必要な場合は、メンバーの構成や担当職員を考慮して、グループピングを行う。

みんなで協力して、準備をしよう。生活単元③図工③音楽②総合②

生活単元

- ① グループごとに手順を確認しよう。
- ② プレゼント作りをしよう。
- ③ プログラムや役割分担を決めよう。

図工

- ① 衣装をリメイクしよう。
- ② ツリーの飾りを作ろう。
- ③ 窓の飾りを作ろう。

音楽

- ① クリスマスの歌を練習しよう。
- ② 踊りの練習をしよう。

総合(2年生は制作済み)

- ① リースに飾る木の実をとろう。
- ② クリスマスリースを作ろう。

みんなで、協力して楽しいクリスマスパーティーを開こう！④

・みんなでクリスマスパーティーをやって、楽しかったね。
・また、みんなとやりたいね。

・みんなで協力したら、いろいろなことができたね。
・クリスマスパーティーができてよかったね。

6 本時について

- (1) 本時目標 みんなで話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えをもったり、伝えたりすることができる。
- (2) 本時展開

学習活動				主な支援・留意点【評価】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> みんなで協力してクリスマスパーティーをひらこう </div>				○前時までの活動を、全体で確認していく。 ○本時のめあてを確認する。 ○イメージが視覚的に伝わるよう、具体物を用意し、説明に合わせて見せるようにする。 ○子ども達から出てきた意見は、それぞれ受け止めるようにする。 ○考えをつぶやいている子どもに声かけをして、発言できるように促す。 ○話し合いの際には、個学の「話す・聞く」ルールをもとに行えるように教師・支援員が声かけをする。 ○自分の考えをみんなに伝えるときには、できるだけどうしたいのかも考えさせ、一緒に言えるようにする。 ○自分から発言できない子どもに声かけをし、安心して発言できるように促す。 ○子どもの聞き取りにくい言葉は、うまく補助して、みんなに伝わるようにする。 ○できるだけ全員の考えを聞き合えるようにする。 ◇友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。【評価】 ○時間に余裕がある場合は、係でさらに話し合いたいことをみんなに提案する。
○それぞれの係で考えてきたことを提案し、検討する。 ○遊び・プレゼント③ ・プレゼントは何にするか。 ① クリスマスカード ② アイロンビーズ ③ カードとアイロンビーズ	○飾り① ・壁につける飾りについて ① 輪飾り ② スタンドグラス ③ 形を組み合わせた飾り ④ リース	○クリスマスケーキ② ・ホットケーキを焼いて作るか食パンで作るか。	○歌・踊り・衣装④ ・クリスマスパーティーに歌う歌を何にするか。 ① あわてんぼうのサンタクロース ② ジングルベル ③ 夢待列車	
○それぞれの係の提案へ質問や意見を聞く。 ・プレゼント交換は、どうやってするのですか？ ・スタンドグラスはどうやって作るのですか？ ・食パンは、どうやって切るのですか？ ・歌は、2曲歌うことはできますか？				
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みんなで楽しくするには どうしたらいいかな？ </div>				
○次の時間にやることを確認する。				

7 実践を終えて

(2) 子どもたちの解決したい問題とは

① 自分なりに思いを持つこと

「個学の子どもたちにとって、解決したい問題って何だろう？」と、いつも担任同士で考えを出し合ってきた。最初は「〇〇したい」という思いをみんなが持つことから始まるのではないかと考えた。子どもが自分の思いを持つことは、すぐにできることではない。日々の積み重ねが必要である。そこで、生活単元学習だけではなく、年間を通して様々な場面で「自分の思いを持つ」ことを意識して進めてきた。みんなで一つのことを決める時やどれが良いか相談する時、どれが良いか自分で決めて選ぶ時など、悩んでいる児童がいる時はその子に合わせて自分の思いを引き出すような声かけをするようにしてきた。思いを持つことが苦手な子は、友だちの考えを聞いて自分なりに選び、自分の思いを伝えることを目標としてきた。そうした積み重ねにより、自分の考えをみんなに伝えようとする子が増えてきた。そのため、生活単元学習での話し合いでは、自分の思いを伝え合おうとする子が多くなった。

② 実現させるために強い思いを持つこと

今回は、クリスマスパーティーでいろいろなことをやりたい思いと限られた時間でできるのかという現実とで葛藤する場面があった。「時間がなくてできない」という意見からみんなで考えて、話し合ってきた。子どもたちの中にある「クリスマスパーティーをやりたい」という思いが、薄いものだったらそのまま実現させることはできないと思ったが、子どもたちの中から「みんなで協力すればできる」「みんなでがんばればできる」といった発言が出てきた。その言葉にみんなも同調し、「みんなで協力して、クリスマスパーティーをやりたい」という強い思いに深化していった。

③ みんなで協力すること、みんなで決めていくこと

子どもたちは「みんなで協力する」「がんばる」と言っていたが、「協力する」「がんばる」ということを具体的に実行していかななくてはいけない。そこで、子どもたちが出し合ったたくさんのやりたいこと（思い）を整理し、グループごとに分担して提案することにした。提案という形を取り入れたのは初めてだが、みんなが計画に関わっていけるようにするために、少人数のグループに分かれて取り組んだ。みんなが楽しめ、喜んでくれるのはどうすれば良いかを考え、グループで話し合い、みんなが分かるように説明するための準備をし、提案した。みんなのことを考えることで、自分のやりたいことを押し通すのではなく、友だちのことを考えようとする相手意識が生まれてきた。また、提案して友だちの考えを聞こうとする姿も見られるようになった。みんなで相談して決めていくことで、自分たちの力でクリスマスパーティーをやり遂げようという積極的な関わりも見られた。

それぞれのグループで話し合いを進めていくと、「どうしよう?」と迷ったり、悩んだりすることにぶつかる。グループの中だけでは、決められない（解決できない）問題としてみんなで相談する。（解決しようとする。）それを繰り返すことで、どんなこともみんなで相談し、解決したいという気持ちが生まれるのではないかと思う。

(3) ひびきあいの姿をみとる

① 話し合い活動の積み重ね

「話す・聴く」ことは、話し合い活動の中で積み重ねてきた。最初は、話し合い活動に慣れない子もみんなが楽しそうに話し合っている様子を見たり、聞いたりしているうちに「自分も話し合いをしたい」と思うようになってきた。また、話し合うことがみんなの思いを出し合って決められることが多いので、必ず一度は自分の思いを伝える場面がある。そこには、自分の思いを受け止めてくれる友だちや先生がいるため、安心して話すことができるのだと思う。自分の思いをなかなか言えない子も友だちの話を聞いて「〇〇さんと同じで〇〇です」という言い方をするようになってきた。それは、友だちの話を聞きながら、自分と同じ思いの意見を見つけることができたということである。話の流れを理解することが難しい子も板書や先生の声かけで自分の思いに似ている意見を見つけ出せるようになってきている。みんなと一緒に話し合い活動に参加して、自分の思いを伝えることは、子どもたちにとって、自信につながる大きな力となっている。

② 提案することで「伝わるように話す」「みんなの思いを聞く」を学ぶ

この学習の柱となった「みんなに提案する」中で大切にしたいことは、聞いている人のことを考えて、相手に分かりやすく話したり、具体物を見せてイメージをつかませたりして、話し手の意図を伝えることである。みんなに伝えるために実際に具体物を作ることでどうすればより良いか、自分の考えを深めることや、伝える練習をすることで、みんなの前に立ってスムーズに話すことができた。また、それぞれのグループで提案することで話し合いの内容が明確になり、これからの活動内容に見通しを持てたようだった。

グループごとに提案をした後には、みんなの意見を聞く場面を作った。ここでは、全員の意見を聞きたいという子どもたちの姿が見られた。意見を言っていない子に、「〇〇さんはどうですか?」と聞く子もいた。それは、みんなの思いを知りたいという気持ちの表れだと思う。また、友だちの思いを受け止めようとして意見に反応する子が増えてきた。その子が何を言おうとしているのかを推測し、言葉を言い換えて理解しようとする姿が見られた。

③ めあてに立ち返る

話し合いが進んでくると、自分の意見を主張し、時には意見がまとまらないこともある。その時には、最初にみんなであらためてめあてに立ち返り、もう一度どちらの意見がよりめあてに近づけるかを考えさせるようにした。すると、子どもたちなりに「みんなで」「協力」がキーワードとなり、自分の考えをもう一度考えることができた。また、理由を持って意見を変えたり、譲ったりすることができるようになった。

④ 少人数の関わりの中で

全体で話し合う他に、グループで相談する場面を設けた。少人数での話し合いのため、自分の考えを話しやすく、相手にも伝わりやすく、考えを理解できるようになる。また、同じ目的に向かって話し合ったので、話し合っている内容が分かり、どの子も参加しやすかったようだ。友だちの意見に「良いね」「教えて」と反応し、全体の話し合いでは、聞いていることが多い子もグループの中でその子の良さを見つけて、認めようとする姿が見られた。

(4) 成果と課題

子どもたちが提案し、話し合う経験をさせたことで、自分の問題として捉えることができたのは良かった。また、提案する時に具体物など視覚的支援を取り入れたことでみんなに分かりやすく伝えることができた。共に活動をする中で友だちの良さを感じ、真似ることで学ぶことができた。何よりもみんなの力でやり遂げたことは、成功体験として子どもたちの心に強く残ったようだ。「時間がなくてできない」「自信がなくてできない」と言っていた子も「みんなでやればできる」「みんなで練習すればできる」という気持ちに変わったことは、大きな心の成長だと思う。そして、自分の意見をみんなに聞いてもらえることやみんなで協力するということで、仲間意識が育ってきたと思う。

ただ、個々の持っている実態が違うため、1つの活動に対してそれぞれの課題を明確にして対応していく必要がある。そして、一人ひとりの児童に対してより細かな支援や活動への手立てが必要になってくる。得意な子も苦手な子も充実した学習活動ができるように、個人のみとり（実態把握・課題と手立ての明確化・支援の仕方）をしていきたい。また、どの子にとっても有効な教材の見極めが今後も大切になってくると思う。